

「コロナ危機と 規制・財政政策」

【日時】

2021 年 2 月 15 日 (月)
15:30~17:00

【参加方法】 ZOOM ウェビナー



本イベントへの参加を希望される方は、QR コードか下記のリンクから事前にご登録をお願いいたします。

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_EXfuL-WbTw-dGKcdGOwWRg

【言語】 日本語

報告 1

早川有紀 (関西学院大学准教授)

単著『環境リスク規制の比較政治学:日本と EU における化学物質政策』(2018 年、ミネルヴァ書房) など

報告 2

田中雅子 (東京大学特任助教)

Ph.D. Diss. 『負担増政策の成立と政治制度—連立政権時代の政党間競争と協調』(2018 年、東京大学) など

モデレーター: 具裕珍 (EAA 特任助教)

プログラム

15:30-15:35 趣旨説明
15:35-16:05 早川有紀 (関西学院大学准教授)
16:05-16:35 田中雅子 (東京大学特任助教)
16:35-17:00 総合討論

2020 年始まったコロナ危機は、さまざまな問題を露呈させています。EAA では未来社会を考える上で大事な意思決定過程の問題と今後を検討してきました。今回は第三弾として若手研究者をお招きし、規制政策と財政政策を議論したいと思います。

コロナ危機では、経済活動の規制やワクチンの承認など、様々な不確実性があるなかで政策決定が行われてきました。まずは、早川先生から危機管理 (Crisis Management) やリスク管理 (Risk Management) の観点から、日本におけるコロナ危機下での政策決定を取り巻く制度やその特徴、課題について論じてもらいます。これを通して、これまでの政府の対応が危機対応や、リスク規制とどのように関連付けて理解できるか議論できればと思います。

また、コロナ危機では、落ち込んだ経済を下支えするため財政出動がとられ、日本でも緊急経済対策などで、財政赤字は突出した水準に達しており、大きな問題となっています。田中先生からは、財政出動をめぐってかわされてきた主要な理論潮流と金融危機や震災など過去の危機と今回のコロナ危機の比較を通して、政党政治が財政問題にどのように向き合ってきたのかを検討してもらいます。これを通して、未来社会を構築するための財源確保にいかにして取り組むのか、今後を展望する議論を行いたいと思います。ご関心のある皆さま、ふるってご参加ください。

【主催】 東京大学東アジア藝文書院 (EAA)